

令和4年度 奈良県立高田高等学校 学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和4年度（中期計画1年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	「自強・和敬・創造」の校訓のもと、生徒各自が進路実現を果たし、地域社会を創生・牽引する人材や、教員として奈良県教育を支える人材の育成を目指します。
年度重点目標	(探究)・「総合的な探究の時間」の充実に向けた計画策定の策定 (確かな学力)・タブレット端末や電子機器等を有効に活用し、主体的・対話的な授業の実践 (協働)・生徒会活動や委員会活動を中心に、生徒主体の学校行事の運営 (社会貢献)・社会貢献活動を推進する地域振興団体と連携した各種行事の立案 (教育アンビシャスコース)・市内の小学校等と連携し、小学校体験実習の実施

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 ・向上心や探究心、知的好奇心があり、何事にも挑戦できる生徒 ・将来の目標に向けて、学習や部活動に取り組む意欲をもつ生徒 ・ルールやマナーを遵守し、互いに尊重しながら他者と協力することのできる生徒 ・地域や社会に関心をもち、地域社会の課題解決に取り組む意欲をもつ生徒 ・教員を志し、教育について自ら考え、学ぶ意欲をもつ生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	本校では、確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身の育成を目指すとともに、人間関係構築力や社会参加意識を養うために以下の教育を行います。 探 究 ・体験学習や発表の場を増やし、「総合的な探究の時間」を充実させます。 ・協働的な学びによって、コミュニケーション能力や情報発信能力を育成します。 ・教科の枠にとらわれない横断的な学習を通して、主体的、創造的に取り組む態度を育成します。 確かな学力 ・タブレット端末や電子機器等を有効に活用し、主体的・対話的な授業を実践します。 ・ポートフォリオの活用により、客観的な自己評価を行い、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出します。 ・多様な進路実現を図るため、通常の授業に加え、実力養成講座を充実させるとともに、外部講師を招へし、講演会や説明会を実施します。 協 働 ・部活動や課外活動に、積極的に取り組むことのできる環境を作ります。 ・人権意識を高める活動を行い、多様性の尊重される学校づくりを実践します。 ・生徒会活動や委員会活動を中心に、生徒主体の学校行事を進めます。 社会貢献 ・学校行事を通して、他者との関わりの中で、自己有用感を育成します。 ・ボランティア活動等を通して、主体的に社会に参画する意識を高め、社会貢献の精神を育成します。 ・地域振興団体との交流を深め、積極的に各種行事に参加する機会を設けます。 教育アンビシャスコース ・市内の小学校等と連携し、小学校体験実習を実施します。 ・ディベートや集団討論を通して、教員として必要なコミュニケーション能力を高めます。 ・連携大学等から講師を招へし、教育について専門的学びを深めます。
	育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	本校では、以下の資質・能力を身に付けた生徒に卒業を認定します。 ・探究心をもって課題を設定し、それを解決し論理的に表現することができる。（⇒探究） ・身に付けた幅広い知識と確かな学力を卒業後も生かし、自己の将来を開拓・実現できる。（⇒確かな学力） ・他者を尊重し、社会の中核を担う存在として多様な人々と協働することができる。（⇒協働） ・社会の一員としての自覚をもち、地域の人々に愛され、郷土の発展に貢献できる。（⇒社会貢献）

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和4年度末の目標値等（C）	令和4年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策(案)
1. 心と身体を子どもの成長に合わせてはくむ	生徒の体力向上	新体力テストの総合判定 A 評価が、全体の15%以上。	新体力テストの総合判定B評価が、全体の35%以上にする。	総合判定A評価の生徒は、男子15.4%、女子13.5%であった。また、総合判定B評価の生徒は、男子34.7%、女子26.1%であった。	具体的目標(B)を達成できたのは、学校全体では男子のみであった。また、具体的目標(C)は男女とも達成できなかったが、男子についてはほぼ目標値に近かった。	「健全なる精神は健全なる身体に宿る」の一部のとおり、体力向上は生き生きとした学校生活の基本であり、目標達成に向けた精進に励んで欲しい。	体育の授業はもとより、今後は部活動等においても、「新体力テストの総合判定の向上」について取り組みたい。
	授業や体育活動における生徒の主体的な取組（企画・運営等）	授業アンケートで「意欲的に取り組んでいる」(スポーツが好き)と肯定的に回答する生徒85%以上。	授業アンケートで「意欲的に取り組んでいる」(スポーツが好き)における肯定的な回答を80%以上にする。	授業アンケートで「意欲的に取り組んでいる」(スポーツが好き)と回答した生徒は、学校全体では76.2%であった。学年男女別に見ると、1年男子85.0%、女子67.9%、2年男子84.3%、女子69.8%、3年男子90.0%、女子69.0%であった。	具体的目標(B)(C)は、学校全体では達成できなかった。男子については概ね達成することができたが、女子は達成できなかった。	大多数の生徒は、体力の必要性を理解していることから個人の興味を持てるスポーツ、運動にまず取り組むのがいいと思われる。	ほとんどの生徒(97%以上)が「体力は必要と思う」た回答したことから、更に、体力の向上とスポーツ好きへの発展(意欲的に取り組む姿勢)に、取り組みたい。
	自己肯定感の醸成	「心と生活等に関するアンケート」の肯定的な回答が80%以上。	個人面談等を通じて、生徒の個性の把握と能力の伸長に努めることで、「心と生活等に関するアンケート」における肯定的な回答を60%以上にする。	肯定的な回答した生徒は、87.4%であった。	日常の生徒観察、声かけ、面談等により、数値目標は達成できているが、日々揺れ動く生徒達の心に寄り添っていき、今後も生徒理解に努める。	日々の先生方のご尽力と安定した学校環境を構築されていることが垣間見える結果であると評価したい。	さらなる自己肯定感の醸成に努めていく。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはくむ	授業改善による主体的・対話的な授業の向上	学校改善アンケートで「学力向上を図るため、適切な授業を行っているか」の質問に対し、肯定的な回答が85%以上。	学校改善アンケートで「学力向上を図るため、適切な授業を行っているか」における肯定的な回答を80%以上にする。	学校改善アンケートで、「学力向上を図るため適切な授業を行っているか」に対する肯定的な回答が78%であった。	主体的な学びを促進させるため、指導内容や方法を工夫し、授業改善に取り組んでいる。特に1年生では、BYODの取組で電子黒板を活用して授業を行っている。また、中間考査を廃止し、日頃の学習を重視し、評価する場面を増やした。概ね肯定的な回答であり、今年度の目標は達成できたと考える。	目標値には届かなかったものの、コロナ禍ということを考えれば概ね達成できたのではないかと考える。	新型コロナウイルス感染症の様子を見ながら、PCや電子黒板を有効に活用し、対話型授業を実践していく。
	学習に対する興味・関心の醸成	高大教育連携大学の講師による出張講義内容に関する生徒アンケートにおいて、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上。	連携大学講師による「教育」に関する出張講義を実施することで、「学習に対する興味・関心が高まったか」における肯定的な回答を80%以上にする。	アンケートで、「学習に対する興味・関心が高まった」に対する肯定的な回答が92%であった。	連携大学の講師の先生による専門的な講義を実施したことで、「教育」について様々な角度から考えさせることができた。その結果、自分がより深く学びたいと関心をもった分野への進路を実現するために、個々の生徒の学習意欲が高まった。意欲的に出張講義を受講しており、今年度の目標は達成できたと考える。	引き続き「教育」に特化したいろいろな分野の知識を生徒に付けさせ学習意欲をかき立てることが望まれる。	今後も「教育」に関する学びにつながる出張講義を実施していく。
	ICT教育の推進	各科目の授業における各学期ごとのICT機器の活用率100%。	職員向けICT活用研修を年間3回以上行い、授業アンケートの質問項目「ICT機器を活用することで積極的に授業に参加できているか」における肯定的な回答を60%以上にする。	職員向け研修会は全3回実施した。授業アンケートの質問項目、「ICT機器を活用することで積極的に授業に参加できているか」における肯定的な回答は77.6%であった。	教員側のICT運用能力の向上に関しては一定の成果があったと考える。また、生徒の授業評価アンケートにおけるICT活用状況の調査結果も、今年度の目標を達成できた。電子黒板の活用や、Google Workspace for Educationの一般的な活用方法等について知識や技能を高め、今後も研修等を通して、ICT活用を授業力向上のみならず校務の効率化にも継続して取り組む。	教職員のICT活用能力の向上に努められるとともに、ICTを活用したアクティブラーニングを進められることを期待します。	ICTの授業内使用に関しては十分とは言えない。教科やHR活動での使用を促進する必要がある。
未来の夢と進路目標の設定	3学期末における生徒の進路目標が「未定」である生徒の割合を、1年生で10%以下、2年生で5%以下。	学期毎の進路HRで職業や学部に関する情報を学年進行で活用することで、3学期末における生徒の進路目標が「未定」である生徒の割合を、1年生で30%以下、2年生で20%以下にする。	3学期の進路アンケートでは、進路目標が「未定」と回答した生徒は、1年生7.9%、2年生0.9%であった。	各学年の進路課題に沿い、段階を踏んでHR案を計画し、担任の先生に実施していただいた。進路目標が未定の生徒の割合が大きく減少し、キャリアや学問に対しての意識付けができていくと感じる。	早期に進路目標を持つことは、それだけ早くから学習計画を立てることにつながる。担任の先生方の指導に期待したい。	引き続き、取組の充実にも努めていく。	

3. 働く意欲と働く力をはくむ	教員を目指す生徒の実習への参加	教育アンプシャスコースの小学校体験実習の生徒満足度を85%以上。	小学校体験実習に主体的に取り組み、教職についての学びを深める。実習における生徒満足度を80%以上にする。	目標を達成できたと回答した生徒は88.5%で、満足度においては100%であった。	5日間の小学校体験実習において、先生方の授業の仕方や児童への接し方を観察するだけでなく、運動会や校外学習の準備、授業の準備などを手伝うことで、教わる側では気づかなかった教員の仕事の大変さを知る反面、児童が楽しむ姿や理解して喜ぶ姿に教員としてのやりがいを感じていた。生徒たちが主体的に実習に取り組んだ結果、今年度の目標が達成できたと考える。	教員になりたいという生徒の意欲を高める取組の内容や、それに対する生徒の反応も素晴らしいと思える。	今後、小学校のみならず中学校とも連携できる仕組みを考えていきたい。
	オープンキャンパスやインターンシップへの参加	夏期休業中の進路課題としてオープンキャンパスやインターンシップへの参加を促し、報告書で肯定的に回答する生徒の割合を85%以上。	夏期休業中を中心に、オープンキャンパスやインターンシップへ1,2年生全員の参加を促し、「オープンキャンパスやインターンシップに参加することで進路意識の向上につながったか」における肯定的な回答を65%以上にする。	「オープンキャンパスやインターンシップに参加することで進路意識の向上につながったか」の質問に、肯定的に回答した生徒は1年生70.3%、2年生87.2%であった。	オープンキャンパスやインターンシップ等のたくさんの選択肢を示した上で、どの質問や探究活動がどのようなキャリアにつながるかを伝える必要がある。	1年生の早い段階から将来を見据えた行動ができるような取組はモチベーションも上がると思われる。	大学や職種を知ることが、将来のキャリアへのモチベーションアップにつながる。進路課題の提示前に「進路のしおり」を十分活用して、先輩の受験先を知り、調べ学習につなげたい。
	キャリア教育に向けた啓発活動の促進	生徒（進路委員）が作成する、進路ニュースレター『進路のすゝめ』を年3回発行。	各科目の学習方法や類型・科目選択のアドバイスを取り入れた進路ニュースレター『進路のすゝめ』を進路委員が作成できるよう取り組む。	1, 2学期には類型選択、科目選択、学習方法、進路情報の活用方法等、進路委員が集めた情報を記事にして発行している。3学期には、3年生が受けた大学入学共通テストの受験報告書から、感想や反省点を抜粋して掲載した。	進路委員が工夫する進路ニュースレター『進路のすゝめ』は、情報収集力の育成につながる。今後も時勢に応じたトピックで最新の情報を発信する。	進路ニュースレター『進路のすゝめ』は生徒が作成することに意義があり、情報を生徒全員が共有し、みんなで目標を達成しようという熱意を感じる。	引き続き、取組の充実に努めていく。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	生徒会や部活動等による、地元の小・中学校、公共機関やNPO法人等との連携	地元公共団体等から依頼される社会貢献活動等に積極的に参加するとともに、生徒が主体的に参画・運営する各連携事業や行事を年間8回以上計画。	生徒会執行部が中心となり、社会貢献意識や奉仕の精神を培うため、各連携事業や行事を年間5回以上計画する。	生徒会執行部が中心となる各連携事業及び行事を10回計画し、実施した。	年度当初に計画した、ボランティア委員と生徒会役員の最終の活動を1月に行った。今年度も地域の方々からの依頼で様々な活動に協力させていただくことができたと思う。活動の参加予定時期に新型コロナウイルス感染症の感染者数が非常に多くなったため断念した行事もあったが、生徒会役員が中心となって終えることができた。初めての試みとして、中学校の進路ガイダンスで本校の紹介を行った。	コロナ禍で制限があったことを考えれば、成果としては十分なものもあったと考えられる。コロナ禍が収束すれば、学校外の行事参加も積極的に行っていたきたい。	感染症の状況を見ながら、行っていない活動を少しずつ復活させていく。地域連携については、年度の早い段階で活動の一つとして準備できることが望ましい。
	コミュニティスクールの運営の充実	年間3回の学校運営協議会の開催。	学校運営協議会でのアンケートにおいて、「学校教育目標の達成に向け、積極的に取り組んでいるか」の質問に対し、肯定的な回答を80%以上にする。	「学校教育目標の達成に向け、積極的に取り組んでいるか」の質問に対し、肯定的な回答が100%であった。	7月に開催した学校運営協議会において委員の方々よりいただいたご意見について、「地域と協働で行う活動の推進」については、コロナ禍の影響もあり計画どおり進めることができなかった。	学校運営の向上に向けて効果的な意見を述べていきたい。また、地域社会も一丸となり教育活動に参画できるように努めたい。	コロナ禍の収束状況を見ながら、地域社会と協働で行う行事をさらに充実させ、地域と共にある学校づくりを推進していきたい。
	郷土理解を深める学習への取組	「総合的な探究の時間」および「奈良TIME」の取組をとおり、生徒の地域理解や郷土愛が深まったという回答率80%以上。	学校教育目標に基づき、「総合的な探究の時間」(探究)のフレームワークを完成させる。	令和4年度入学生からカリキュラム変更に伴い、今年度は「探究」としての生徒の活動はなかった。令和5年度から第2学年で実施する。	より主体的で充実した取組となるよう、また地域理解や郷土愛を深められるよう、目標から再設定し、生徒の活動分野も新たな9分野を設定した。新しい「探究」活動の準備が十分とはいえないができたのではないかと。今後も、実際の活動を見ながら検討すべきところは検討し、新鮮で意義ある活動となるようサポートしたい。	「探究」は高田高校の教育方針の重要な一翼を担っていると思えます。今後も充実することを期待します。	次年度実施に向けて、教員の共通理解をさらに図り、9分野それぞれが充実した活動となるよう取り組みたい。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	生徒による人権意識啓発の取組	生徒が作成する人権啓発『ニュースレター』を年間6回発行。	ホームルームにおける人権啓発『ニュースレター』の配布時に、人権委員の生徒が教員とともに啓発活動を年間3回行う。	人権啓発『ニュースレター』を年間6回発行し、全校生徒に配布した。しかしながら、人権委員の生徒による啓発活動には至らなかった。	人権委員の生徒による作成は目標達成できたが、配布時における生徒によるアピールができなかった。	人権意識啓発は地道な活動、努力が必要になると感じています。今後も充実した活動ができることを期待します。	作成だけでなく、作成担当生徒が放送等を通じて、全校生徒に啓発の呼びかけをしながら配布を行う方法を検討中である。
	生徒の人権意識高揚に向けた取組	年度末アンケートで「社会の様々な差別について、それをなくす言動を積極的にしていこうと思う。」と回答する生徒の割合を85%以上。	人権教育ホームルームや人権教育講演会等の活動内容について、生徒が主体的に参加・学習できるよう工夫することで、年度末アンケートで「社会の様々な差別について、それをなくす言動を積極的にしていこうと思う。」と回答する生徒の割合を75%以上にする。	「3年間の人権学習アンケート」において、人権学習ホームルームや講演会をとおして、学び、考えたことを活かし、社会の様々な差別について、それをなくす言動を積極的にしていこうと思うと回答した生徒の割合は、82%であった。	人権教育ホームルーム以外にも、第1・第2学年共に年間1回、学年別人権教育講演会を開催し、人権意識の向上に努める。	人権教育講演会の感想等について、積極的に意見交換し、人の痛みが分かる人間に育って欲しい。	今後も、「当事者の思い」を知ることができる内容に主眼を置いた講演会が開催できるように、講演会の形式や講師依頼等を考えていきたい。
	いじめのない学校づくり	いじめアンケートで「いじめられている」の回答に対する解消率85%以上。	アンケートや面談等により、早期発見・早期解消に努める。解消率を75%以上にする。	いじめ事象等にかかわるアンケートを3回実施し、いじめられていると回答した生徒は1名いた。ただ、担任からの事情聴取により、いじめではなくネット上の書き込みで嫌な思いをしたとの回答があった。念のため、その後経過を観察していたが、現在は問題ないということだった。	担任による2者面談を複数回にわたり行うことで、生徒の現状把握と課題の早期発見に努めた。また、学期ごとにいじめや生活にかかわるアンケートを実施。適切に対応ができるようにした。重大事案は確認していないが、高校生という不安定な時期であることを認識し、教職員全体による日々の観察や声かけなどにより、すべての生徒が安心・安全な学校生活が送れるような取組を継続していく。	日頃から問題に対して早期対応していることが、今回のアンケート結果につながっていると思われる。いじめに対する学校の姿勢は評価できる。	引き続き、取組の充実に努めていく。

### 3 評価結果の分析、今後の改善方策等

- ・令和4年度末の状況については、概ね高評価をいただいている。個々の分野については、当初に定めた目標に至らなかった部分もあったが、学校運営協議会委員よりいただいた意見を参考にして、次年度も取り組みたい。
- ・「目標達成に向け、積極的に取り組んでいるか」について学校運営協議会委員を対象にアンケートを行った結果、(よく取り組んでいる (67%) )、(だいたい取り組んでいる (34%) )であった。
- ・「本校に入学してよかったか」について全校生徒を対象にアンケートを行った結果、(そう思う(93%))、(そう思わない(7%))であった。
- ・「本校に入学させてよかったか」について保護者を対象にアンケートを行った結果、(そう思う(93%))、(そう思わない(7%))であった。